

1

特集

広がる挑戦と改革 令和7年度表彰

— 教育・研究・業務改善の成果 —

 Vol.46
 February
 2026

埼玉大学では、教育・研究活動や業務改善において顕著な成果を挙げた教職員を表彰しています。令和7年度、学長表彰および業務改善推進賞表彰式を11月25日(火)に実施し、各分野での継続的な努力と挑戦を称えました。

学長表彰表彰式

学長表彰は、職務に顕著な功績があった教職員や社会的な功績があった教職員を表彰することを目的として平成29年度に創設した制度です。

表彰では、教育・研究活動に顕著な功績があった教員に「学長賞」、「学長奨励賞(研究)」が、業務運営に関する改善・効率化等に顕著な功績があった事務職員に「学長奨励賞(業務改善)」が授与されました。

式では、坂井真文学長から各受賞者に対し、表彰状及び副賞が授与されました。坂井学長はあいさつで、各分野における各受賞者の功績を称えた後、研究予算が削減される厳しい状況下でありながら受賞者が重ねてこられた努力と大学運営の質を高める取り組みに敬意を表し、「今後のご活躍も大いに期待しています」と激励しました。

受賞者を代表して日本語教育センター・人文社会科学研究科の新井高子教授があいさつを行い、受賞の喜びを述べられるとともに、「大学におりながら文学者でいられることが大きな自信となっている」と受賞のきっかけとなったご自身の著作について触れられ、今後の研究活動について決意を新たにしました。



各賞の詳細はこちら

https://www.saitama-u.ac.jp/news_archives/202511040900.html


業務改善推進賞表彰式



業務改善推進賞は、業務の効率化を促進するとともに、事務職員等の業務改善への意識を高めるため、広く事務職員等から「改善実績」を募集し、業務改善に関して顕著な功績をあげたと認められるものを表彰する制度です。

今回は、6件が業務改善推進賞として決定され、木崎一美理事(総務・財務・施設担当)・事務局長から受賞者11名に表彰状が手渡されました。

また、木崎事務局長から受賞者へ激励の祝辞があった後、受賞者を代表して川上全学教育課長から謝辞が述べられました。

本学では今後もDX(デジタルトランスフォーメーション)等による業務の合理化、効率化及び機能の高度化を推進していきます。

各業務改善の詳細はこちら

https://www.saitama-u.ac.jp/news_archives/202512171530.html


2
ダイバーシティ

日本初のダイバーシティ科学専攻始動 — キックオフイベント開催

9月30日(火)、大学院人文社会科学研究科に開設する「ダイバーシティ科学専攻」のキックオフイベントを開催しました。本専攻は、日本初の「ダイバーシティ科学」を学問領域とする修士課程であり、当日は、同専攻に関心を寄せる学生や社会人、設置に向けてご支援いただいた企業関係者など学内外から約130名が参加しました。

上智大学法学部 三浦まり教授と本学 田代美江子副学長（ダイバーシティ推進担当）による対談では、ダイバーシティを単なる競争に勝ち抜く手段とするのではなく、人権課題として社会正義の視点から捉えることが、日本の持続可能な社会の構築につながるとの見解を示しました。

本イベントは、本学が地域と連携しながら、持続可能な社会の実現に向けて新たな一歩を踏み出すとともに、ダイバーシティ環境推進拠点として、さらに機能を強化していくことへの期待が高まる機会となりました。



▲対談する上智大学 三浦教授(左)と田代副学長(右)

3
研究

ERATO豊田植物感覚プロジェクト — 新研究拠点お披露目&キックオフシンポジウム開催

10月2日(木)、本学にて科学技術振興機構(JST)の戦略的創造研究推進事業ERATOに採択されている「ERATO豊田植物感覚プロジェクト」のキックオフシンポジウムを開催しました。坂井学長より開会の挨拶があり、「本プロジェクトへの期待と大学としても応援していきたい」とのエールが送られました。

本シンポジウムを通じて、植物感覚研究の新たなスタートを多くの方々と共有することができました。今後も本プロジェクトは、植物研究の世界最先端の研究成果を発信できるよう精進していく意欲を新たにしました。

また、研究の新拠点となるサイエンスフロンティアハブのお披露目会も開催されました。研究装置が配置され、研究者や学生が常駐し、研究を進めていきます。



▲研究の新拠点となるサイエンスフロンティアハブ

4
学生

ゼミで議論を重ねた政策提言を埼玉県知事に届けた! — 知事と学生の意見交換会開催

10月16日(木)、本学の学生が大野元裕埼玉県知事に政策を提言する「知事と学生の意見交換会」を開催しました。この取り組みは2010年に始まり、今年で16年目を迎えました。若者の感性を県政に活かすとともに、大学を生きた学習の場とすることを目的としており、これまでに学生たちの提案をもとに実現に至った政策もあります。

大野知事による全体講評では「既存事業と異なる切り口の提案、埼玉県のポテンシャルを高める提案は、非常に興味深く、一部は具体的な採用も検討できるものだった。2040年、2050年にも『住んでよかった』『働いてよかった』と思える持続可能な埼玉県を目指したい」と熱く語られるとともに、発表した学生および指導教員への感謝が述べられました。大野知事と学生との記念撮影も行われ、盛会のうちに終わりました。



▲学生に質問する大野知事(右手前)

今回の政策提言のテーマ	提言者
空地の余地	経済学部 内田奈芳美教授ゼミ
人材定着から考える男性育休取得と復帰後の支援	経済学部 大津 唯准教授ゼミ
親世代の生物多様性の認知度向上に向けた埼玉県での実践的アプローチ	経済学部 有賀 健高教授ゼミ
彩くるツーリズムによる地域活性化 — デジタルツールを用いた利便性・魅力の向上	工学部 小嶋 文准教授ゼミ
埼玉県 みんなで創る さともフェア	経済学部 江口 幸治准教授ゼミ



▲政策提言を行う学生

地域の魅力を再発見！商店会イベントに学生広報サポーターが協力

11月2日(日)さいたま市南区で、「第15回青空ふりーまーけっと」が開催され、運営に本学の学生広報サポーターが協力しました。本連携は、南高通り商店会と浦和六辻商店会からの依頼を受け、昨年引き続き実施したものです。7月の意見交換会を受けて学生がアイデアを持ち寄り、イベント当日に向けて、商店会との打ち合わせや準備を行いました。

今年度は、学生の若い視点を活かしたポスター制作やレクリエーション企画・運営を通じて、昨年度以上にイベントを盛り上げました。当日は10名の学生が運営に参加し、地域の方々とのつながりを深めるとともに、地域の賑わい創出に大きく貢献しました。参加した学生からは「去年に引き続き、商店会の方々や意見を交わしながら、地域の課題について考える貴重な機会となりました」とメッセージが寄せられました。本学は今後も地域との連携を通じ、持続可能な地域経済の発展に寄与してまいります。



坂井学長がウクライナ・ポルタワ教育大学から表彰 —国際支援と交流の実績評価

本学の坂井学長が、ウクライナのポルタワ V.G. コロレンコ国立教育大学(Poltava V.G. Korolenko National Pedagogical University)より表彰されました。表彰状には、「日本とウクライナの学術・教育・文化交流への寄与、および戦時下におけるウクライナ教員・学生への支援に対する感謝」が記されています。

表彰式は、11月14日(金)に本学で開催された国際シンポジウム「危機下のレジリエント教育と心理支援 —ウクライナと日本の経験から—」の席上で行われ、ポルタワ教育大学 副学長の Vasyl Fazan 氏 により授与されました。

Fazan 氏は、日本からの支援が「大きな力と希望となっている」と述べ、本学への謝意を示しました。坂井学長は、「今回の表彰は本学が続けてきた交流全体への評価である」と述べ、両大学の教職員への感謝を示しました。さらに、「ウクライナはきわめて厳しい状況にある。深い連帯の気持ちを持って今後も支援を続けたい。一日も早く平和が戻ることを願っている」と述べました。

今後も本学は、ポルタワ教育大学をはじめとするウクライナの教育機関との連携を継続し、人的交流や共同研究、学生・教員支援などを通じて、学術交流の深化と相互理解の促進に努めてまいります。



▲(左から)坂井学長とVasyl Fazanポルタワ教育大学 副学長

ホームカミングデー 2025開催

11月22日(土)、本学同窓会(教養・経済・教育・理・工の5学部同窓会で構成)との共催により、ホームカミングデー 2025を実施しました。ホームカミングデーは大学と卒業生・修生、退職教職員、地域の方々との交流の場として、また、教育研究その他本学の活動状況の理解を促すとともに、本学とのネットワークを構築することを目的として、平成22年度から開催しています。

特別講演では、本学在学中にバルセロナ五輪柔道競技で銀メダルを獲得し、フランスのオリンピック代表柔道チームのコーチ等として活躍された日本女子体育大学 溝口紀子教授の貴重なお話を、参加者が熱心に聞き入っていました。また、懇親会では、今年度の前期期間において学業や課外スポーツ活動等で顕著な成績を収めた学生への学生表彰も行われ、楽しいひとときとなりました。



▲特別講演の様子

埼玉大学創立80周年記念ロゴマークが決定

本学は、1949(昭和24)年に埼玉県唯一の国立大学として県民の大きな期待を担って誕生しました。知の府としての普遍的な役割を果たすとともに、現代が抱える課題の解決を図り、国際社会に貢献することを基本方針に掲げ、現在では、5学部3研究科を有する総合大学となり、2029(令和11)年には創立80周年を迎えます。今後、様々な記念事業を学内外に広くPRし、その気運を盛り上げるため、キャッチフレーズ(創造の一步を共に)に続きロゴマークを募集したところ、70件の応募をいただきました。選考の結果、小山田凜太郎さん(経済学部経済学科1年)の作品を創立80周年記念ロゴマークに決定しました。



9
特集

埼玉大学と横浜市立大学の包括連携協定締結 —教育・研究・社会貢献分野における連携強化

本学と公立大学法人横浜市立大学は、両大学が有する優れた教育・研究資源や地域社会との連携の成果を相互に活かし、両大学の一層の発展に資するため、包括連携協定を締結しました。少子化の進行や国際競争力の低下など、我が国を取り巻く環境が大きく変化する中で、社会のニーズに即した人材の輩出や研究力の強化と社会実装、地域との共創や国際化の推進など、大学には役割の再構築が求められています。

今回の包括連携協定の締結を契機として、教育・研究・地域貢献・産学連携・国際交流など幅広い分野において協力を進め、社会への成果還元を通じて、我が国の学術・産業の発展および人材育成に寄与してまいります。



▲(左より)横浜市立大学 橘勝副学長、近野真一理事長、本学 坂井学長、石井理事

Pick up

本学教員が手掛ける注目の研究を紹介するオンラインマガジン『Frontiers of SU Research』



量子センサでナノ材料研究の未来を切り拓く! 理工学研究科 清水麻希 助教

ダイヤモンド結晶中に現れる欠陥構造「NVセンサ」を利用した量子センサは、室温で量子力学的効果を観測できる革新的な技術です。本学大学院理工学研究科の清水麻希助教は、このセンサを用いて、従来の温度計では計測が困難だったナノサイズの物質の温度計測技術の確立にチャレンジしています。この技術を活用すれば、ナノサイズであるために熱電性能が高くフレキシブルな熱電素子としての応用が期待される新素材「カーボンナノチューブ」の特性をより詳細に把握できる可能性があるとのこと。つまり、研究が進展すれば、未来のデバイス開発や産業応用を大きく前進させることが期待できるのです。

統計的アプローチから社会保障の未来を描く。 人文社会科学研究科 大津唯 准教授

格差や貧困の拡大、少子高齢化による医療費の増大などを背景に、医療保険や介護保険、生活保護制度といった社会保障制度はさまざまな課題に直面しています。本学大学院人文社会科学研究科の大津唯准教授は、統計データを用いて、そんな社会保障制度の実態を明らかにする取り組みを進める研究者。偏ったイメージが先行しがちな社会保障制度の問題において、現実の正しい理解につながる研究成果は制度の見直しに大きく役立つのは言うまでもありません。例えば、大津准教授が注目する「剥奪指標」は、所得だけでは捉えきれない生活困難度を測るもの。この指標を活用することで、従来の所得を用いた指標では見えなかった貧困の実態を捉え、社会保障制度を改善していくことが期待されるのです。



オンラインマガジン『Frontiers of SU Research』の最新インタビューでは、清水助教と大津准教授が語る研究の展望や社会的インパクトについてご紹介しています。ぜひご覧ください!

各記事の詳細はこちら

<https://www.saitama-u.ac.jp/research/frontiers/>



埼玉大学基金室より 学生団体等支援オンラインチャリティーイベントを開催しました

いつも埼玉大学基金へのご理解とあたたかいご支援をいただき、ありがとうございます。

本学では、令和7年10月10日～10月19日の期間に渡り、オンラインチャリティーイベント「Giving Campaign 2025」を開催しました。本キャンペーンは、学生が自らの課外活動への思いや目的を発信し、それに共感いただいた方々からご支援をいただくことを趣旨として実施したものです。今回のイベントには、18の学生団体が参加し、学内外へ広く呼びかけを行いました。その結果、5,105名の方々から応援投票をいただくとともに、多くの皆さまより温かいご寄附を賜りました。お寄せいただいたご支援は、各学生団体の活動を支える貴重な資金として活用され、学生が安心して課外活動に取り組める環境づくりに大きく寄与しております。また、学生にとって、支援して下さる方々の存在を実感し、自らの言葉で感謝を伝える経験は、課外活動を通じた大きな学びの一つとなっています。本キャンペーンにご参加・ご協力いただきましたすべての皆さまに心より御礼申し上げます。



Giving Campaign 2025のホームページはこちら



詳しくはホームページをご覧ください

<https://www.saitama-u.ac.jp/funds/>

埼玉大学基金 検索

◆埼玉大学基金へのご寄附の累計額

令和7年12月末の状況 **753,419,000**円

うちリサイクル募金 きしゃぼん によるご寄附 **1,818,299**円

お問い合わせ先 埼玉大学基金室 (総務部広報渉外課内) ☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp

